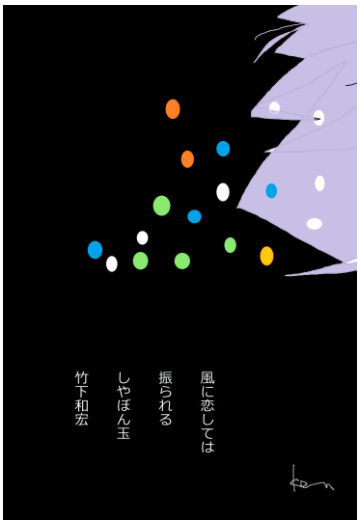
■今月の特選句

2021年4月



風に恋しては振られるしやぼん玉

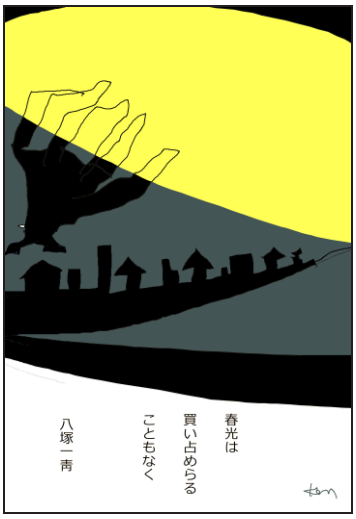
竹下和宏

しゃぼん玉は、恰好いい風とみればすり寄ってゆくのだが大方は弾かれてしまう。振られても気にせずお気楽であきらめぬのがバブル根性か。

頑固さはもう捨てました春キャベツ

鈴木和枝

春キヤベツの軽やかさを新しいかたちで表現した。頑固さを捨てているのはキャベツでもあり作者自身でもある。つぶやきの口語俳句。



春光は買い占められることもなく

八塚一青

価値のあるものは、えてして資本家に買い占められるもの。しかし、この春の光はそうはゆかぬ。資産、所得額に関係なく平等に与えられる。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の特選句

2021年4月

蛇出でて腰のあたりの力ぬく

井口夏子

蛇でなければ分からない実感を描いている。蛇の腰の部分に注目したところがいい。どこが蛇の腰かって？そりぁ穴を出て最初にくねったところよ。

失恋の始めはバレンタインの日

西をさむ

恋心の告白を簡単にできるようにした商魂が、バレンタインデーとなっているわけだが、うまくゆくとは限らない。人生は甘くはないのさ。

咥へくるクロネコヤマト桜鯛

椋本望生

桜鯛を咥えてクロネコヤマトとはお洒落。佐川や日通では句にならぬ。「ほかほかの焼芋腹にカンガルー」「カンガルー懐の焼芋で手を温め」なんてね。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

戸をたたくハーイと出れば春嵐　小笠原満喜恵
・・・騙すつもりは風にはなくて

老いの恋桜はやがて散りぬるを　金城正則
・・・ひこばえとても花を咲かせる

暖かし歩く形（ナリ）して靴干さる　吉原瑞雲
・・・夜は徘徊するやも知れず

空覆ふほどの力士の干蒲団　飛田正勝
・・・乾きにくくて残った残った

もうテレビ何でもよくて二月尽　山本　賜
・・・照明器具として使ふべし

口閉ぢて蛤海のこと言はず　稲葉純子
・・・言つたところで仕方ないのよ

念入りに裏門掃除卒業す　髙田敏男
・・・バイトばかりで勉強もせず

春一日医者巡礼をして暮れぬ　髙橋きのこ
・・・診察券の遍路札めき

長物となりたるピアノに春の塵　田中早苗
・・花台としての役割させよ

裃で見得を切りたる土筆んぼ　長井知則
・・・袴脱がせりやすつぽんぽんに

種類などどうでもよくて初桜　花岡直樹
・・・ビールの銘にはこだわるけれど

はみ出して不良願望葱坊主　峰崎成規
・・・バンカラ言葉使ひこなして

吊革の張りの戻らぬ花疲　柳　紅生
・・・全体重を預けつぱなし

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の滑稽句

＊今月の特選句･秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

猫が眼を回すが愉し独楽回す	相原共良
蝋梅の匂ひ仄かに芥箱	相原共良
春なれや惟庵の跡の茶臼山	相原共良
杉の花笑い転げて花粉撒く	青木輝子
コロナ禍の不要不急の猫の恋	青木輝子
嫁姑幅寄せ危険四月馬鹿	青木輝子
暖房のやりくり困る電気代	赤瀬川至安
マーキングのたちまち氷る午前五時	赤瀬川至安
春眠と知らずあなたの傍に居る	赤瀬川至安
風光り段の正しき畑かな	井口夏子
新築に泥の新居のつばくらめ	井口夏子
思い思いの寝相で子らの春の夢	池田亮二
バレンタインデーオール五の子はチョコ一つ	池田亮二
木の芽雨日がなババ抜きエンドレス	石塚柚彩
散歩道家の形に春の霜	石塚柚彩
ガンダムになりきりし児の駆けし春	石塚柚彩
竹槍で突いて落とす凧(いかのぼり)	伊藤浩睦
空母から公魚を釣る豪快さ	伊藤浩睦
薄氷を踏みて白票入れに行く	伊藤浩睦
マスクしてみんな無口に探梅行	稲沢進一
子ども泣く風船の旅始まりぬ	稲沢進一
春の雪またあの歌を口ずさむ	稲沢進一
麗かや猫も鼾を掻くもので	稲葉純子
ワハハハのこゑは立てずに山笑ふ	稲葉純子
数ふれば三寒四温違はずに	井野ひろみ
春寒しダウンのベスト着る子犬	井野ひろみ
目力がちょっと怖いなアネモネの	上山美穂
夢の中で頑張っている目借時	上山美穂
珈琲手に吟行気分風光る	上山美穂
春一番音符にすればソラドドド	遠藤真太郎
四月馬鹿ワクチン更に遅れそう	遠藤真太郎
隼(はやぶさ)の眼で競うカーリング	遠藤真太郎
河津桜この木が好きと鳥群れる	大林和代
白梅に弾かれ空のにごりたる	大林和代
うぬぼれもマスクに入れて春霞	大林和代
春風に波長を合はせ鳥の声	小笠原満喜恵
啓蟄を待たずにあいつ飛び出した	小笠原満喜恵

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事･写真･イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写･転載等を禁じます。

松山の松の心は春を待つ	金城正則
海近き下灘駅に枇杷を食む	金城正則
矍鑠(かくしゃく)と未練たっぷり落椿	久我正明
未来見て未練たっぷり落椿	久我正明
「入るな」の札のあれども梅見かな	久我正明
出国の空をこじ開け鳥帰る	工藤泰子
残る鴨藩主の御庭許されて	工藤泰子
残り鴨先憂後楽謳ふ庭	工藤泰子
春一番兎角とやかく言われても	桑田愛子
春光る鮭の小骨が喉にかな	桑田愛子
嘘に嘘重ねて眩し初桜	桑田愛子
土筆摘む記憶の底に友の顔	小泉和子
腐葉土に太る幼虫しゃぼん玉	小泉和子
竹の子や境界線など気にせずに	小泉和子
恋猫の満身創痍朝帰り	小林英昭
その初音免許皆伝ほど遠し	小林英昭
安普請廊下の軋む蜃気楼	小林英昭
皺を癒してくれる春うらら	佐野萬里子
東京が沖縄並みや暖気流	佐野萬里子
バレンタインチョコを頬張る二月かな	佐野萬里子
大嘘脱兎のごとく離れたる	壽命秀次
諍ひの種の名無しの賀状かな	壽命秀次
また妻を誘惑に来た焼芋屋	壽命秀次
よそゆきの顔で祓はるる受験生	白井道義
のほほんとしている内に春一番	白井道義
一筋に一途一徹恋の猫	白井道義
おみくじを二人で覗く梅日和	鈴鹿洋子
斎庭に絵馬のひしめく道真忌	鈴鹿洋子
青空が好きだ白菜の薹立ち	鈴木和枝
集って落葉人間について語る	鈴木和枝
赤よりも白が好きです薮椿	高岡昌司
片栗の花せせらぎの音を聴く	高岡昌司
トップバッター目立ちたがりの薮椿	高岡昌司
春場所やお返ししたき借りた胸	髙田敏男
昼酒を飲んで暴れて猟名残	髙田敏男
隣家の名ふと忘れたり春霞	高橋きのこ
歩き過ぎといふアル中の増えし春	高橋きのこ

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

につぽんに春風のごとサザエさん	竹下和宏
万愚節嘘もお江戸も八百余	竹下和宏
耳鼻科歯科耳鼻科歯科歯科二月尽	龍田珠美
春立つやサリサリ削る白トリュフ	龍田珠美
春に買うアップルパイとイヤリング	龍田珠美
老人を生きてゐる今日春立ちぬ	田中　勇
日向ぼこと日光浴の間春浅し	田中　勇
くの一のようにも見えて紅梅は	田中　勇
記憶無し四月馬鹿でもあるまいに	田中早苗
海馬はやつるんつるんの心太	田中早苗
蛤やわての片割れどこにおる	谷本　宴
春の道ミスチル聞いてどこまでも	谷本　宴
クロッカスゆつくり眺めリラックス	谷本　宴
九字を切り菜の花蝶に化しにけり	田村米生
花冷えや鼻の機嫌が悪くなる	田村米生
今治のタオル欲しげな濡れ燕	田村米生
部屋干しの横にイケメンの男雛	月城花風
春来る妖の世も現し世も	月城花風
佐保姫も夜食に頼むデリバリー	月城花風
鷽（うそ）鳴くや足を引っ張る人ばかり	土屋泰山
グーだけだ磯巾着のじゃんけんは	土屋泰山
伊予柑の街に堂々松山城	土屋泰山
八百の密も許され梅ふふむ	飛田正勝
昔からペアで密です二人静	飛田正勝
コロナ禍も三十一段の密の雛	長井知則
背を合わせ喧嘩の後の日向ぼこ	長井知則
ブラウスの袖折る指に春深む	永易しのぶ
学び舎の桜にときめき四十年	永易しのぶ
春惜しむ迷子のスカーフ淡色の	永易しのぶ
街道をゆけば難波江菜の花忌	西をさむ
ミャンマーにきっと釈迦牟尼多喜二の忌	西をさむ
コロナ禍の合格祝いは振り込みで	花岡直樹
啓蟄やビールの泡もうごめきぬ	花岡直樹
お日様を独り占めして冬たんぽぽ	久松久子
切り岸に何処へ行こうか草の絮	久松久子
浮寝鴨宿直の一羽首もたぐ	久松久子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

いふなれば早期退職落椿	日根野聖子
ブローチはどれにしませう春の服	日根野聖子
クロッカスこんな花よと描いてみせ	日根野聖子
コロナ禍のロックダウンに春を待つ	廣田弘子
幸福を念じて齧る恵方巻	廣田弘子
春嵐シャツは干されてイナバウアー	廣田弘子
はいチーズマスクしてても目は笑う	細川岩男
着ぶくれや通勤ラッシュを三密に	細川岩男
派手派手の柄のマスクに目立つ顔	細川岩男
西行を起こさぬように春の山	南とんぼ
ふっくらと煮ふくめてをり鬼の豆	南とんぼ
憤まんなし注意力なし春の婆	南とんぼ
どつぷりと春日載せたる布袋腹	峰崎成規
未来志向胡散臭くて亀鳴けり	峰崎成規
一つ知り二つ忘れて目刺焼く	椋本望生
毒気なき美女豪快に杉花粉	椋本望生
右左どちらと分からず春の闇	向田将央
踏まれたくないのとたんぽぽ自販機の下	向田将央
小筆とは認めてもらえぬつくしんぼ	向田将央
初夢や父のおはこの虎造節	村松道夫
夫から妻に逆チョコバレンタイン	村松道夫
建国の言葉失せたり建国日	村松道夫
泣き声の笑ひ声とも朧の夜	百千草
逃水やあれやそれやで会話果つ	百千草
背の丈を子に追ひ越され鶯餅	百千草
剪定やあの芽この芽に目を取られ	森岡香代子
光浴び金糸のごとく春埃	森岡香代子
あはあはとしてつれづれの雪の果	森岡香代子
スカートの丈のわずかに春めける	八木　健
山笑ふなどとんでもないとコロナ通	八木　健
北窓を開けば思い切り世俗	八木　健
一国の城主自ら垣手入れ	八塚一青
蛤が碗に大きな顔でいる	八塚一青
番台の小町に未練卒業す	柳　紅生
春の蠅逃すか家族会議せり	柳　紅生
目覚めると外は一面春の雪	柳澤京子
春山に出かけた昔なつかしき	柳澤京子
生きる力野山の芽吹きにもらひたる	柳澤京子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

苗木より値札まず見る植木市	柳村光寛
桜鯛釣ってくるぞと勇ましく	柳村光寛
毎年よ花粉飛散の悲惨さは	柳村光寛
ツイッターに花の溢れてミモザの日	山内　更
仔猫には迷路立体駐車場	山内　更
物種を蒔く賃貸の庭に蒔く	山内　更
ウグイスの声で目覚める新居かな	山岡純子
暖かくなる今日この頃や落椿	山岡純子
五つ葉のクローバみつけ幸を待つ	山岡純子
枝垂梅しぶきの形に時を止め	山下正純
菜の花の千畳敷きや風緩む	山下正純
発つ風をとらえ大鷏（おおばん）御一行	山下正純
おはようの手に凍て返る朝の水	山田真佐子
クレーンは麒麟の首で春の屋根	山田真佐子
ようこそと陽光桜に迎えられ	山田真佐子
きんぽうげ花壇はすっかり新しく	山本　賜
消毒の小さなポンプ春の午後	山本　賜
草餅のせんい残るや舌の先	横山洋子
辛夷咲く園児らの靴カラフルに	横山洋子
店じまひ燕も一緒に宿じまひ	横山洋子
大雨のパンチパンジー崩したる	吉川正紀子
流さるるひひなに手向け野辺の花	吉川正紀子
たんぽぽが駅長さんで無人駅	吉川正紀子
暖かや背伸びしている俺（おら）の影	吉原瑞雲
歓喜して野面頒（わ）けゆく雪解水	吉原瑞雲
紅梅や君のまつげのながきこと	渡部美香
触診の指に香るや三宝柑	渡部美香
卒業の記念樹の名ぞ春一番	渡部美香
春一番男尊女卑を吹き飛ばせ	和田のり子
里山はおちよぼ口して山笑ふ	和田のり子
冬銀河ヒト百年を手の平に	和田のり子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。